

# ～～学習会報告～～

## 立川断層を考える

講師 角田 清美氏 (青梅市文化財保護指導員)

ろうきん友の会西多摩支部の学習会を、7月24日(水)ろうきん西多摩支店二階会議室で開催しました。会員の皆さんに、報告文をまとめました。豊富な資料、映像を駆使してのユーモア溢れるお話で、判り易く、充実した学習会になりました。(事務局)

先生の経歴の自己紹介から始まり、羽村の「まいまい井戸」の話から、井戸掘りの大変さを実証的に考察して行く必要を説く。地形、地層に興味をもち、その土地の歴史から、人々がどう利用して生活して来たか そこに、学問追求の原点がある。

立川断層⇒有名な名前を付ける⇒立川断層のスタートは、

- ①小曾木4丁目～笹仁田峠～今井2丁目
- ②瑞穂栗原新田～狭山ヶ池～石畑～武蔵村山市三ツ木2丁目
- ③中原1丁目～日産村山工場～砂川3丁目～立川～国立(残堀川にそって、岩蔵～国立23K)  
原市場断層～立川断層。名栗断層(名栗村～小沢峠～軍畑～柚木～日の出)  
養沢断層～川口断層

\*断層のある所には、温泉が出る。地下の岩が割れ、地盤が震えることで、地震となる。

### 断層の垂直的な運動

- 断層が出現する前⇒①正断層⇒引っ張られる。落ちるような断層  
②逆断層⇒押し合う。潜り込むような断層  
③衝上断層⇒摺り上がる。衝突するように盛り上がる断層

断層の水平的な運動

### 産総研(つくば市)活断層研究センターのトレンチ調査(2004年12月瑞穂町)

2ヶ所のトレンチ調査の結果、断層が2回動いた跡がハッキリ見て取れた。  
地層が鋭角にずれ、断層活動の痕跡がハッキリ判った。1万年以内に動いた痕跡がある。

### 映像と資料の提示をしての説明

資料として、活断層図、今井藤橋付近の地形、平成元年から平成23年11月までの日本列島の地震発生図(年月日、大きさ)世界地震分布図、日本付近の被害地震の震央図、地震の揺れの伝わり方。映像と資料を使い、具体的に説明をして頂きました。全てを報告出来ないのが残念です。津波についても解説がありました。発生後、量的に想像以上に動く。経験則からの逃げ方も。

### 地震波の種類とその特徴

- ①P波⇒地表付近での速さ5～6km/s 地震の始めに地鳴りのように感じる揺れがP波である。
- ②S波⇒地表付近での速さ3～3.5km/s 振幅が大きく、ユサユサと揺れる。
- ③表面波⇒比較的遠方まで達する。表面波が到着するまで、ガタガタと揺れる。

### 山崎首都大学教授の発言

日本の平野を作っているのが活断層。活動は何千年に一度。多摩川段丘は、地盤が良好で地震動に強い。火災への対応が最も重要。河川敷は洪水の危険があり、避難場所にはしない事。

★ 地震発生の危険が叫ばれている時期でしたので、この学習会の実施も、大変、良かったと思います。(事務局)